

令和3年度労災疾病臨床研究事業費補助金

「小規模零細事業場の構成員に必要な支援を効率的に提供するツールと仕組みを通してメンタルヘルス対策を浸透させることを目指す実装研究」(200401-01)

研究代表者：堤 明純（北里大学医学部公衆衛生学単位）

研究の目的

本研究では、対策が遅れている小規模零細事業場におけるメンタルヘルス対策を浸透させることを目的とした実装研究を行う。具体的には、これまで有効性が評価されてきた職場のメンタルヘルス対策手法—構成員（事業者および労働者）向け教育、職場環境改善—に現場で活用できる情報—メンタルヘルス不調発生時の相談先や好事例集—を加えたツール類を、利用者に参画してもらいながら実装を図り、これらのツールを活用しながら小規模事業場を支援する地域資源体制のモデルを提案する。

研究方法

初年度に、諸外国を含めた先行研究レビュー、現地ヒアリングを実施して、研究申請者および協力者の実地経験とともに共有しながら作成した、各分担の成果物のプロトタイプのトライアルを、現場フィールドを利用して実施し、利用者や参加事業場からのフィードバックを基に改良を行った。

研究成果

経営者が自らの健康と職場の環境を評価するためのツールである SYTY2000® Self-assessment of Work and Health 日本語版の開発と実装に向けた項目の洗練化、小規模事業場構成員向けトレーニング教材として、小規模事業場に勤務する労働者を対象とした ICT を活用したセルフケア支援プログラム「うえるびの森」の開発、小規模事業場経営者向けトレーニング教材の開発と実装における効果評価研究、メンタルヘルス不調者発生時の対応マニュアルの開発、小規模事業場における実効性のある職場環境改善のためのプライバシー保護を含む方策の検討とストレスチェック制度を活用した小規模事業場における職場環境改善方策（IT ツールの開発を行った。さらに、これらツールを職域に浸透させる

ために、産業保健総合支援センターによる支援モデルの検討、地域・職域連携推進事業を利用した小規模事業場への支援方法に関する検討を行い、最終年度にツール実装を図るため、小規模事業場に ICT メンタルヘルスツールを実装させるための実装戦略を検討した。

結論

科学的根拠に基づきながら、Patient and Public Involvement (PPI) の枠組みを用いて受益者（小規模事業場構成員）の受け入れやすさを追求して、①経営者として職場環境と自身の健康を評価するためのツール、②経営者自身がこころの健康づくりを学ぶためのツール、③ 従業員個々のこころの健康づくりを行うためのツール、④職場の意思疎通をさらに活性化して、働きやすい職場づくりに取り組むためのツール、⑤発生した不調者への対応の「またはあらかじめ学ぶ」ためのツールの5つのツールを開発した。さらに、事業者へ、開発したツール類の情報提供を行うリーフレットや提供方法の枠組みを検討した。

今後の展望

最終年度には、開発したツールや情報を、HP 等を通じて紹介し、利用者からのフィードバックを受ける形で、実装を進めていくための情報を得ることを計画している。